



INTERVIEW

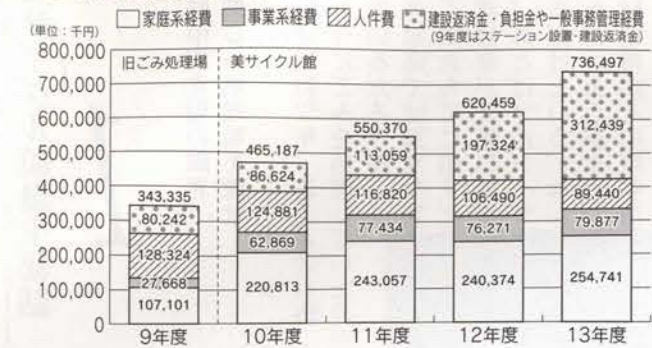
市民の皆さんの  
努力と情熱に感謝したい

▼美サイクル館完成から5年経ちましたが、今のように感じていますか？  
「一番強く感じるのは、市民のみなさんの意識が大きく変わったことです。美サイクル館が稼働してから留萌の街の中はとてきれいなになりました。ごみの集積場所を全市ステーション方式にしたことでカラスの被害が少なくなりました。町内会単位での「ごみへの意識が非常に高まっています」。

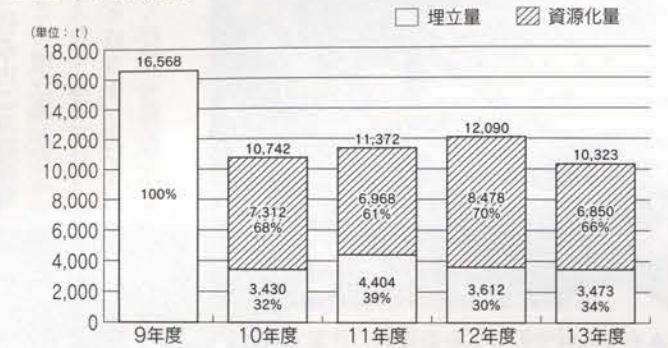
▼留萌以外の地域からも見学が多いと聞きましたか？  
「見学にやってきた皆さんが『市民のみなさんがよくやっていますね』と感心しておっしゃいます。これだけの「ごみ分別」をするためには市民のみなさんの協力が不可欠だということを見学であらた

▼今後の美サイクル館の活動について教えてください。  
「今のごみのリサイクル率は約7割程度ですが、将来には9割近くまで高めることを目標にしたいですね。そのためには①分別の徹底、②ごみの減量化について市民のみなさんの協力が欠かせません。分別の徹底についてはごみ分類表の分類を守ることに尽きると思います。またごみの減量化については、適切な量を購入し、無駄な消費を抑えることや買い物の際に自分で袋を用意すること、心をかけていただければ達成できると思います。また、最近不法投棄も広域化してきているので、こうした点についても注意していきたいと思っています」。

■ごみ処理経費の推移



■ごみ量の推移



※平成12年度市民懇談会資料より

2 美サイクル館を活かせ

市民全員で「ごみ分別大作戦を展開『混ぜればごみ、分ければ資源』」  
美サイクル館の機能を発揮させるために、ごみ分別収集は不可欠なものとなった。  
しかし、環境保全を大義名分にいきなりごみ分別を言い渡しても、市民が混乱するのは明白。そこで、市は『混ぜればごみ、分ければ資源』を合言葉に、ごみ分別収集を徹底するべく「ごみ分別大作戦」を展開したのである。この日から、ごみと留萌びとの格闘が始まった。  
手始めに一部の地域をモデル地区とし、実験的にごみ分別収集を始めた。結果は良好。その後も各地域へ出向き、延べ数百回に及ぶ分別の説明会を行った。  
こうして市民にごみ分別が浸透していき、平成9年10月、留萌市全体でのごみ分別収集がスタートした。当時、7種類プラス1という徹底したごみ分別は、全国でも珍しく、改めて留萌市がごみ処理の先進地であることを世間に知らしめた。  
驚異のリサイクル率70%を実現  
ごみ減量とリサイクルの行方  
美サイクル館の完成とごみ分別で何が変わったのかを具体的に表すのは難しいが、次のことについては数字で表すことが出来る。

それは年間に出るごみの総量である。上の図を見てのとおり、留萌市のごみは確実に減っているのが分かる。しかも、そのごみの約70%はリサイクルされ資源として再利用されている。これは驚異的な数字と言えるだろう。  
ごみ処理費用は自分が負担  
すべては、埋立ごみ減量のため  
留萌市のそれまでのごみ処理費用は、埋め立て、ごみ収集、人件費などで年間約3億円。しかし、美・サイクル館の完成後は、それまでの運営コストに公債費(借金)及び処理施設などが上乗せされ、年間約8億円と大きな負担を背負う結果となった。  
そこで市は、運営コストを抑え、ごみ減量を徹底すべく平成12年1月「ごみ処理手数料有料化」を市民に提案したのだ。  
当然市民の猛反対を受けることになるのだが、市はごみ処理コストと自然環境の関係について説明し、市民に理解を求めた。  
「自然は一度破壊すると人間の力で元に戻すことは不可能と言われていた。そして文明を維持して自然環境を守るためには、お金がかかる。だからと言って自然環境を守るためにかけるコストは無限には限界がある。コストを減らしてリサイクルを推進することは時代の要請であり、もう後戻りは出来ない。そしてコストを減らすためには、市民一

人ひとりが自己責任とコスト意識を持つことが必要だ。『ごみには責任が伴う』、そしてそれを処理するために『お金がかかる』。その意識付けを徹底し、ごみの減量をするためには、自分のごみ処理費用を自分が負担するのが一番」と市は判断したのである。  
その後、市民の理解を得て平成12年12月、ごみ処理手数料有料化がスタートしたのである。  
結果、市民の協力により一時伸び悩んでいたごみの減量に成功したのである。  
3 留萌市が抱える最大の課題  
現在のごみ埋立場は余命わずかあと5年の命……。どうする  
現在使用している藤山町の「最終処理施設(埋立場)」は、このまま行くと平成19年で使用できなくなる。市は、現在のごみ埋立場を少しでも長く利用したいと考え、その方策を検討している。  
ばく大なお金をかければ、ほとんどのごみをリサイクルすることは出来る。だが、初期投資や維持費の面から考えると現実的に無理な話。いずれにしても新たな施設を建設するには、お金と時間がかかる。であれば、いかにお金をかけずに燃やせないごみを減らすことができるかが最大の課題と言える。

4 留萌びとの挑戦  
今がごみ大作戦の正念場  
留萌びとのごみにかける情熱  
私たちが留萌びとができることは、何なのか。その答えは、これを読んだあなたが考え、実行して欲しい。留萌びとが長い歳月をかけて培ってきたごみにかける情熱は、決して消えることはない。  
そして、この世にごみがあるかぎり、留萌びとの挑戦はこれからも続いて行く。